

# 贈答のマナーにおける地域特性の事例紹介

—和歌山県の内祝いの例—

浅田 真理子

# 贈答のマナーにおける地域特性の事例紹介

## —和歌山県の内祝いの例—

### A case study on the regional characteristics of manners in gift exchange

### —Looking at the custom of celebration gift exchange in Wakayama—

浅田 真理子

**Mariko Asada**

#### 要 約

人生の節目である通過儀礼において、生活に密着したさまざまな儀式が培われ継承されてきた。中でも冠婚葬祭は、命の尊さや先祖とのつながりが感じられる儀式であるが、しきたりなど地域性や独特の慣習が多く見受けられる。筆者が担当する授業では、ビジネスマナーの一環として冠婚葬祭の知識を指導しているが、一般的な基礎理解に加え地域性が高いものについてはその事例と、地元和歌山県の特性を交えて伝えることを心掛けている。中でも贈答の様式については多くの地域性の違いが表れるが、本稿では祝儀袋や掛け紙の表書きにおいて、和歌山県では内祝いを朱書きすることを取り上げ、授業内容の事例紹介を行う。

人間関係が希薄になり、儀式が簡略化される傾向にコロナ禍で拍車がかかる中、身近な生活に密着した文化を知ることにより、地域への理解を深め豊かなライフデザインを描くための一助となることを望み、歴史・宗教・文化・慣習などさまざまな要素が絡む冠婚葬祭について、今後の研究を深めるための一考としたい。

#### はじめに

人は、誕生してから死ぬまでの間にさまざまな節目を迎える。人生の節目である通過儀礼において、生活に密着したさまざまな儀式が培われ継承されてきた。

筆者は、担当授業である「秘書実務Ⅰ」「秘書実務Ⅱ」において、コミュニケーションやビジネスマナーの指導を行っているが、社会生活に欠かせない冠婚葬祭の知識についても取り上げている。

しかし、長引くコロナ禍では、コミュニケーションの在り方にも変化があり、ソーシャルディスタンスや感染対策が必要となり、マスク装着など、これまでの指導とは異なる配慮が必要となっている。オンラインの活用による在宅勤務など、働き方やビジネスコミュニケーションにも大きな変容が起こればと思われ

る。そして、収束後にもおそらく、社会生活様式には変化が起これ、コロナ禍での習慣が残っていくことが少なからずあるだろう。

人の密集を避けるため、さまざまな行事などが影響を受けている中、冠婚葬祭の場面においても、例えば結婚式や成人式などの延期・中止がニュースなどで報じられている。

授業においては、今後変化していくであろう事柄にも触れながら、まずはこれまで培われ大切に守られてきた様式を伝えることを前提に進行している。

冠婚葬祭の知識やマナーについては、ビジネスの場面でも重要であるが、いわゆるオフィスマナーの類よりも、宗教、文化、地域による慣習の違いなどが如実に現れるため、授業として取り上げるのは、比較的全国で通用する一般的な基礎

知識にとどまらざるを得ない側面が大きい。

冠婚葬祭においては、金品の贈り方など贈答マナーに限らず結婚式や葬式の方法、死生観、衣装、行動様式など、とにかくさまざまな方法や考え方があり、宗教の違いから地域の慣習による違い、細かくは各家の考え方や方法によるものもあり、非常に興味深いけれども難しい側面が多く、正解という正解がないといえる。

地域性においても、例えば、関東と関西での相違点なども非常に多く存在する。中元の時期のずれなどがよく知られているところであろう<sup>1)</sup>。筆者が全国規模で「暮らしのマナー」のような講座を開催した経験上からも、特に地域性が現れるのは、一般的に「熨斗包み」「熨斗袋」と言われる現金や品物などを贈るときに用いる包み方の方法の違いではないかと感じる。

筆者は大阪生まれの大阪在住者であるが、和歌山信愛女子短期大学(以下、「本学」とする)に着任し、和歌山県では、内祝いをすべて「朱書き」にすることを知り驚いた。

本学は、地元志向の強い地域密着型短期大学であり、卒業後も地元で働き地元で居住する学生が多い。ビジネスマナーはもちろん、社会生活としても冠婚葬祭について、地域慣習をある程度理解しておくことが役立つと考え、授業では、一般的な知識に加え、和歌山県の特性について伝えることを心掛けている。マナーという堅苦しいもののように思われがちであるが、型を伝えるのではなく、なぜそのようなことをすることになったのか、どのような気持ちを含めて行うのかを伝えることを心掛けているが、冠婚葬祭については、そのいわれに諸説あることが多く、宗教への深い理解が必要となるなど、明確な説明を行うのは困難と言わざるを得ない。

本稿では、授業において学生に冠婚葬祭に関する知識を指導する際、地域性を伝えている事例紹介を紹介するため、和歌山県の朱書きを取り上げるものとし、今後、考察を深めるための導入としたい。

## 1. 金封に関する地域特性の例

金品を贈る場合、むき出しのままでは失礼になるため、体裁を整えるが、奉書(上質な和紙)で包み、水引で結び、のしを付けるのが丁寧な方法で、一般的な進物では、用途別に水引やのしなどが印刷されたのし紙や掛け紙を用いる。

水引とは、金品を贈るときに、その包装に付ける紐状のものを言い、用途により色と結び方が異なる。

### 1-1 水引の色と地域特性の例

水引は用途により色を使い分ける。慶事には紅白、金銀、金赤などが用いられる。弔事には、黒白、双銀、黄白が用いられる。弔事の水引において、黒白と黄白の使い分けについては、東日本では黒白、西日本では黄白が用いられる<sup>2)</sup>。

前述の筆者が全国的に開催した講座での実感としても関東や北海道などでは「黄白は見たことがない」と多くの受講者からの感想を受けた。

また、名古屋では『一周忌は黒白を使い、それ以降は「悲しみが薄れる」として、黄白を使用することが多い<sup>3)</sup>』、また、京都では、『宮中で使われる紅(くれない)と呼ばれる水引が濃い緑色で、黒白の水引と区別が付きにくいいため、弔事には黄色の水引を使うようになった<sup>4)</sup>』との説がある。

同じ黄白でも地域によりその意味合いが異なるのである。この、水引だけ取り上げても、結び方、のしの本数、色の使い分け、慶事・弔事に関わらず濃い色が右にくるが、赤金の場合、関東では赤が右、関西では金が右となるなど、非常に奥深いところである。

### 1-2 表書きと和歌山県の地域特性の例

表書きとは、祝儀・不祝儀袋や掛紙の表に、贈る目的や名前を記すものであり、毛筆を用いるのが正式である。筆者が担当する授業では、筆ペンを用いて演習を行っている。書道の心得がある学生もいるが、普段書ききれない表書きを筆ペンで練習するのは学生も楽しんで取り組んでいる様子である。

表書きの方法については、慶弔でも相違点が多いが、弔事では薄墨を用いることがある。これは、黒い墨の色が悲しみの涙で薄まってしまったという意味や、悲しみの気持ちが早く薄らぐように、という思いが込められている。

また、四文字を死文字と考え、例えば「入学御祝」を「御入学御祝」としたり、「快気内祝」を「快気之内祝」とするなど、縁起を担ぐための要素が含まれる事例も非常に多い。

表書きについては、地域性が多く存在するが、特に授業で取り上げるのは、『和歌山県、泉州地方、三重県の一部では慶事については朱色の墨で書く地区がある<sup>5)</sup>』ということである。和歌山県では、内祝の表書きはすべて朱色で書くという全国的にも珍しい慣習がある。

表書きの名入れについても、さまざまな方法があり、例えば結婚祝の内祝であれば、①結婚後の姓のみ②新郎新婦二人

の名③結婚後の姓に変わる方の旧姓④新郎新婦両名の名に姓が変わる方の旧姓を添える、などさまざまである。和歌山県では、新郎新婦二人の名が朱書きされている例が多い。

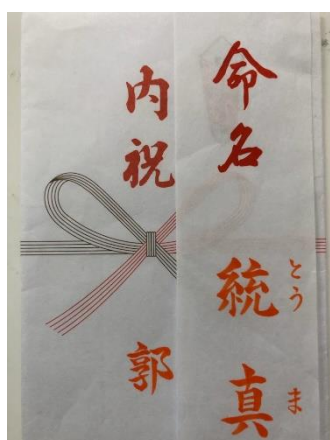
次に出産の内祝であれば、一般的に名入れは子供の名前のみを入れ、ふりがなを付ける。和歌山県では、子供の名前を朱書きにした命名紙を付ける。京都では、命名カード(ベビーカード)を付けることが多いのだが、文字は黒である。

授業の進行としては、まず、「秘書実務Ⅰ」では、一般的な金封の知識を説明し、表書きの演習として、①結婚祝②出産祝③葬儀の3種類を筆ペンで書いてみる。そしてその応用版として、「秘書実務Ⅱ」では、お返しの知識を学び、内祝いの表書きを行う中で、和歌山県の慣習の紹介として朱書きを説明し、朱色の代わりに赤ペンを使用して演習を行っている。

図1 結婚祝の内祝の朱書き例



図2 出産祝の内祝の朱書き例



## 2. 朱書きについて

さて、ではなぜ、和歌山県や一部の地域では内祝いの文

字を朱書きにするのだろうか。カタログギフトや贈答関連業者のホームページなどをインターネット検索してみても、表書きについて、「和歌山県やその他の一部の地域では内祝を朱書きにする」旨記載は多く見受けられる。

しかし、その理由について述べているものがなく、文献なども見当たらない。

和歌山県出身、和歌山県在住の教職員にインタビューを試みたが、「全国そうするものだと思っていた」「朱書きする理由はわからない」との回答であった。

また、和歌山県の地元老舗百貨店ギフトコーナーにも問い合わせしてみたが、「過去にもかなり深く調べたが分からなかった」との回答であった。なぜ、和歌山県、泉州地方、三重県の一部なのか、今後の研究材料としたい。

朱書きに関するものとして、筆者の担当授業の中で「ビジネス文書の知識」がある。封筒のあて名書きにおける「脇付け」を赤字で示すことがあるが、むしろこちらのほうがいわゆる「朱書き」として知られていると思われる。

ここでは封筒の表書きとしての朱書きの例を紹介する。

### 2-1 封筒の表書きに用いられる朱書き

例えば、学生に一番身近なものとして、市販の履歴書を購入すると、郵送するための封筒がセットになっており、「履歴書在中」と赤い文字で印刷されているものが多い見受けられる。一般的にこの赤い文字を「朱書き」と説明する。

そして、この「〇〇在中」などと封筒の表面に記すことを「脇付け」と呼ぶが、封筒の中身を明らかにすることにより、受信者側の処理上の手間を省くという効果がある。朱書きするのは、赤い文字で書くことにより、たくさんの郵便物の中で目立つようにするためであろう。

脇付けには、この他、「親展」「重要」「至急」などがあり、我々が郵便物の中で目にする機会は珍しいことでない。ただし、この脇付けについて、特に朱書きするのが必須というわけではなく、黒文字でも問題はない。単純に目立つようにという意味で、朱色というより、むしろ赤ペンで書くのがごく一般的である。

そのほか、ビジネス文書などで、赤色を用いる例として考えられるのが、「訂正するため」の二重線がある。これも、赤色にするのは、訂正したことが目立つように「見せ消し」をするのが目的と思われる。書道のお稽古などで、生徒が書いた文字を先生が手直する際に朱色の墨を使用するのも、見やすくす

るためであろう。

ビジネス上、「朱書き」というと赤ペンを使用するイメージの赤文字といえるが金封の表書きにおいてボールペンや万年筆は望ましくないし、「赤色」というより、「朱書き」なのである。

## 2-2 朱色の意味

では、「朱色」はどのような色なのだろうか。朱色と言えば、素人感覚であるが、印鑑の朱肉や神社の鳥居や橋の欄干などで塗られているのが思い浮かぶ。朱色は、『魔除けや不老長寿を象徴する色として古くから宮殿や神社仏閣などで用いられてきた<sup>6)</sup>』という説がある。

色については、歴史上、衣装などに反映しさまざまな格式を表す象徴であることが多いが、朱書きと結びつけることが難しい。

朱色は、『古代の言い方では丹(に)と言い、魔を払う力があつた<sup>7)</sup>』とされている。筆者には塗料の専門知識が乏しく分析には至らないが、朱色の原材料には、水銀などが含まれているらしく、その毒性によって魔除けを狙ったのではないかと考えられる。『和歌山県の高野山周辺には「丹」のつく神社が多く存在し、高野山の麓の九度山には豊富な水銀鉱脈があつた<sup>8)</sup>』と言及する記事があり、和歌山県の朱書きとの関連について今後、調査したい。

日本においても、乳児死亡率が高く誕生した命が成長するためには困難が多い時代があつた<sup>9)</sup>。通過儀礼の中でも、帯祝いからお七夜、お宮参り、節句など成人式までに数多くの儀式が存在するのは、邪気を払い魔を羽根(はね)よけ、健やかな成長を願うためである。とすると、朱色の魔除け効果を用いて、内祝いや命名紙の子の名前を書いたのであろうか。

「朱」について、江戸時代の貨幣の単位に「朱(しゆ)」というものが<sup>10)</sup>、これはお金に関連するし、「朱に交われれば赤くなる」とは、広辞苑によると『人は交わる人によって善人にも悪人にもなるということ』というコミュニケーションに関わることわざなどもあることから、内祝いの表書きの朱色に何らかの関連性があるのか、ますます興味深いところである。

## 2-3 朱書きと赤文字

「朱書き」には、歴史や宗教などとの深い関わりがありそうだが、いわゆる「言い伝え」や現代感覚で言うところの「都市伝説」のようなものの中では、「赤文字」と言うと、単純に「縁起が悪い」というイメージがないだろうか。言い伝えなどには、特に何の根拠もなく噂として広がったようなものが多いが、筆者の幼

少時の記憶の中には、赤い字というと、「名前を赤文字で書く」と早死にする「呪いの文字」「血文字」など若干物騒なイメージがある。墓の文字入れを朱で行うとか、さまざまなことに結び付けて不吉だと考える例は、数字の「4」や「9」が「死」「苦」につながるなど、枚挙に暇がない。

そのため、和歌山県の方から内祝いを頂戴した際、朱書きされているのを初めて見たときは実際驚いた。

渡す側からも「なぜ朱書きにするかよくわからないのだが」「和歌山では朱書きするから怖がらないでね」と一言添えられたこともあり、他府県民の反応を見て、驚かれることが多いのだろうと想像される。もちろん、朱書きは朱色であり、赤文字とは別の物であるが、前述の「〇〇在中」などを一般的に朱書きというような感覚を前提とした、「名前を赤で書いている」という単純な反応である。

しかし、こういったことも単純に迷信や笑い話にするのではなく、生きることが精一杯だった時代、命を大切に周囲と協力しながらいかに生きるかを考える中で相手のことを思い培われ、現代に言い伝えられてきたことがたくさん存在することを忘れてはならない。

朱書きについても、明確な理由が見つかっていないが、その意味についてさまざまな想像がなされる。調査の中で明確な関連性には結び付けられなかったが、高野山、熊野大社、那智大社など朱色との関連でも多くのキーワードが浮かび上がり、和歌山県の有する貴重な文化財産の存在など、改めて和歌山県の持つ深い歴史を感じ、大変魅力的に感じるものである。

## 3. おわりに

マナーは法律でもなく、地域など多くの人が共に喜び、悲しみ、互いに支え合いながら、共通の認識として生まれてくるものだといえる。「絶対にこうしなければならない」というものではなく、時代とともに変遷していくものでもある。賽銭のキャッシュレス化導入<sup>9)</sup>などにも象徴されるように、利便性の向上もますます取り入れられていくだろう。

前述のとおり、冠婚葬祭については、価値観の多様性やコミュニケーションの在り方、希薄になる人間関係などさまざまな要因により簡素化されていく傾向が顕著である。

しかし、これまで培われてきたものの意味に思いを馳せ、大切にすべきことを守りながら新しい感覚を取り入れていくことが必要だと思われる。

マナーやしきたりなどを堅苦しいもの、面倒なものとするのではなく、今後ますます発展していくであろう国際交流に向けても、宗教や文化、生まれ育った環境、考え方など多様な価値観を持つ人々との間で、柔軟で心地良い関係を築くためのコミュニケーションスキルとして修得していきたい。自国そして、地元への深い理解が国際交流にも役立つのではないだろうか。

本稿は、朱書きについて、授業の中で地域特性を指導する際の事例紹介にとどまったが、単に「マナーだからこうする」という形を学ぶのではなく、それらが形成されてきた背景を学び、気持ちを込めて行動することを授業の目的とする一環として、その根源について今後の継続研究に努めたい。

#### 引用文献

- 1) お中元を贈るのは、関東では6月下旬から7月15日まで、関西では7月中旬から8月初めである。  
『ビジネスとオフィスワーク実務演習』水原道子編著、2008年、樹村房 P90
- 2) 東日本と西日本の境を「大井川」と例えられることが多い。「大井川」とは、静岡県を流れる河川である。国土交通省中部地方整備局ホームページより  
[https://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/kasen/ooigawa/..](https://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/kasen/ooigawa/)
- 3) 4) 『高島屋のしきたり事典』、株式会社高島屋著、2015年、小学館 P171
- 5) 『高島屋のしきたり事典』、株式会社高島屋著、2015年、小学館 P235
- 6) 7) 8) 「なぜ、神社は朱色なのか？」 | 集成材の生産・販売のことならトリスミ集成材株式会社ホームページより ([torisumi.net](http://torisumi.net)) 2022年1月4日取得
- 9) 1960年の日本の乳児死亡率は30.40%、2019年は1.8%。(日本の乳児の死亡率(推移と比較グラフ) | GraphToChart  
人口動態調査 人口動態統計 確定数 乳児死亡上巻 6-1 年次別にみた出生数及び性別乳児死亡数並びに乳児死亡率(出生千対)・乳児死亡性比及び総死亡中乳児死亡の占める割合 | 統計表・グラフ表示 | 政府統計の総合窓口 ([e-stat.go.jp](http://e-stat.go.jp)) など参照  
ただし、朱書きがいつ始まったのかは定かではなく、乳児死亡率についてはあくまでも参考である

10) 金には「両」、「分」、「朱」、「疋(ひき)」がある。(第110号) ~江戸時代の庶民のお金~ 銭 (平成9年7月1日号) | 三島市 ([city.mishima.shizuoka.jp](http://city.mishima.shizuoka.jp))

#### 参考文献

- 『わかやまの冠婚葬祭』産経リビング新聞社  
『ビジネスとオフィスワーク』水原道子編著、2020年、樹村房  
『ビジネス文書-オフィスワーカーの実務-』、横山秀世編著、2013年、建帛社  
『本当は怖い日本のしきたり』火田博文、2016年、彩図社  
永田美江子「教養科目とスキル科目の連動に際した困難性をめぐる—考察-ホスピタリティマナー演習」と「女性学」を事例に-」日本おもてなし学会誌第1巻 pp67  
「朱」とは？意味や使い方をご紹介 | コトバの意味辞典 ([word-dictionary.jp](http://word-dictionary.jp)) 2022年1月4日取得  
地域で異なる「のし紙」文化(もつと関西): 日本経済新聞 ([nikkei.com](http://nikkei.com))  
「朱書き」の意味とは？封筒や訂正の書き方とボールペンの色も解説 | TRANS.Biz ([trans-suite.jp](http://trans-suite.jp))

#### 付記

本稿執筆にあたり、近鉄百貨店和歌山店5階ギフトサロン様にご協力を賜りました。  
また、和歌山信愛女子短期大学教職員の先生方にご協力と貴重なご教示を賜り、郭先生ご夫妻に資料掲載につきご快諾を頂戴いたしました。  
心より感謝申し上げます。